

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

北海道札幌市

●地域における現状・課題

- 【現状】①部活動指導員等の外部人材活用 部活動指導員はR1年度9人→R5年度68人に増員。R6年度は83人を配置予定。
②学校間連携方式の活用 在籍校に希望する運動部がない場合、他校運動部の練習等に参加を可能とする制度で、R5は30校75名の生徒が他校の部活動に参加。
- 【課題】①受け皿の整備 生徒の多様なスポーツ・文化活動の機会を確保しながら地域移行を進めるにあたって、休日の地域クラブ活動の受け皿となる地域団体が不足。
②指導者の確保 部活動指導員等、地域の専門的外部人材の更なる活用が必要な状況にあるが、質・量ともに指導者の確保が困難。
③予算 外部人材の人件費や休日部活動の運営に要する管理費等の継続的な予算確保が課題。
④施設 セキュリティを確保しながら学校施設を地域クラブ活動に積極的に活用するための安全管理体制の整備が課題。また、地域住民の休日における学校施設の利用のニーズは高く、地域クラブ活動についてしっかりと位置づけが無いと受け皿となる地域団体の学校施設の優先利用について反発が生じる懸念がある。

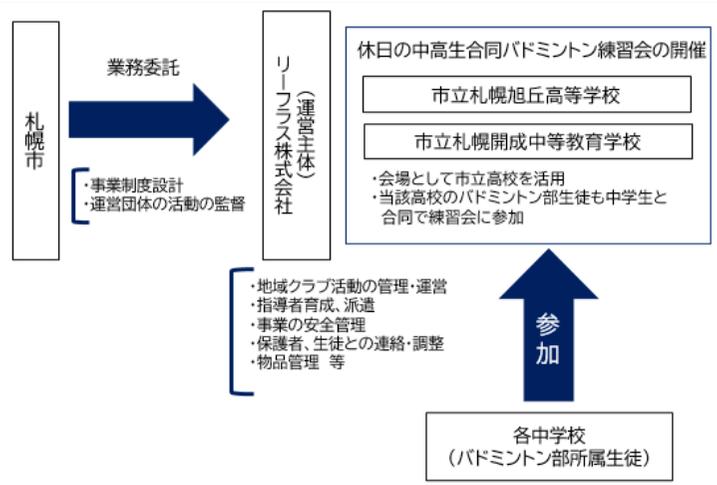
●取組事項の概要

- ・令和5年10月から令和6年2月までの間、市立中学校のバドミントン部に所属する生徒を対象とした休日のバドミントン練習会を開催。
- ・事業の実施にあたり、管理・運営の一切を民間企業に業務委託することで、教員に負担が生じることなく練習会を開催。
- ・また、会場として市立高校等を活用し、会場校のバドミントン部所属生徒も対象とすることで、高校生と中学生が合同で参加する練習会とした。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・令和5年7月に実施した部活動地域移行に関するアンケート調査で小学生からニーズが高かったバドミントンを活動種目として選定。
- ・会場として市立高校、市立中等教育学校の体育館等を活用することで、学校施設の有効活用及び異校種、異年齢による合同の活動を実施。
- ・多種目と比べ相対的に練習に係る経費（シャトル代等）が高いバドミントンのモデル事業を実施することで、将来的な事業モデルの収支構造を検討。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：民間スポーツ事業者運営型
- (2) 運営主体：リーフラス株式会社
- (3) 種目：バドミントン
- (4) 指導者の主な属性：会社員、学生
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：4回程度
- (6) 主な活動場所：市立学校体育館
- (7) 主な移動手段：保護者の送迎
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：参加者負担なし
- (9) 1人あたりの保険料：生徒55円 指導者労災保険加入